

案

平成 27 年度 野鳥園臨港緑地干潟・湿地環境保全事業 目標管理シート

1 目標（何を目指すのか。）

【通年】

野鳥園臨港緑地の干潟・湿地を保全し、施設を有効活用した環境学習の場を提供し、大阪市と事業者が互いに理解・尊重して、対等な関係のもとに協働で事業を進めていく。

2 使命（どのような役割を担うのか。）

【通年】

- ① 野鳥園の干潟・湿地を、将来にわたって、多様な生物が生息し、特に、多くの渡り鳥（長距離を渡るシギ・チドリ類）が利用できる環境を保全するために、順応的な管理を行うこと。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観の中で、干潟・湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供すること。

3 平成 27 年度 運営の基本的な考え方（方針）

(1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生物が生息し、渡り鳥（シギ・チドリ類）が多く飛来する豊かな干潟を保全するため、現在の状況を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、どのような順応的管理（手入れ）をすればいいのかを検討する。（→干潟再生プロジェクト）

(2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

渡り鳥が多く飛来する野鳥園をより多くの市民に知ってもらうため、環境学習を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての干潟の大切さを理解、共感してもらい、一度行ってみたい、また来たいと思われる市民利用施設とする。

- ① 野鳥ガイドの育成および新たな人材の発掘
- ② 市民参加型の環境学習プログラム
- ③ 広報活動の充実化

案

4 重点的に取り組む課題 — (1) 干潟・湿地の保全～渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園～			
	目指すべき将来像 (平成31年3月末時点)	春(3～5月): シギ・チドリ類の渡来種数 22 種。シロチドリ、ハマシギ、トウネン、キアシシギの最大渡来数合計 600 羽。 秋(8～10月): シギ・チドリ類の渡来種数 24 種。コチドリ、シロチドリ、トウネン、キアシシギの最大渡来数合計 300 羽。	
	現状 (課題設定の根拠となる現状)	野鳥園を代表する小型シギ・チドリ類(シロチドリ、ハマシギ、トウネン)の利用個体数が近年激減している。以下に、最近2年と渡来数が多かった頃の比較を示す。 2001年春: 29種。シロチドリ 700、ハマシギ 678、トウネン 1450、キアシシギ 60 (計 2,888羽) 2005年春: 22種。シロチドリ 1074、ハマシギ 800、トウネン 750、キアシシギ 132 (計 2,756羽) 2008年春: 24種。シロチドリ 376、ハマシギ 570、トウネン 404、キアシシギ 87 (計 1,437羽) 2013年春: 21種。シロチドリ 96、ハマシギ 246、トウネン 158、キアシシギ 44 (計 544羽) 2014年春: 19種。シロチドリ 46、ハマシギ 94、トウネン 212、キアシシギ 41 (計 393羽) 2000年秋: 28種。コチドリ 122、シロチドリ 321、トウネン 436、キアシシギ 36 (計 915羽) 2006年秋: 34種。コチドリ 143、シロチドリ 84、トウネン 573、キアシシギ 61 (計 861羽) 2008年秋: 23種。コチドリ 40、シロチドリ 180、トウネン 312、キアシシギ 48 (計 580羽) 2013年秋: 22種。コチドリ 14、シロチドリ 8、トウネン 58、キアシシギ 26 (計 106羽) 2014年秋: 17種。コチドリ 13、シロチドリ 4、トウネン 139、キアシシギ 24 (計 180羽)	
	要因分析(目指すべき将来像と現状に差が生じる要因)	干潟表層の有機物堆積層の流出による干潟の砂質化と有機物堆積層に生息するヨコエビ類の激減。干潟表層のバイオフィルムの減少。池周囲の高木化による猛禽類の定着。地盤沈下の進行。	
	課題(上記要因を解消するために必要なこと)	底質の改善を含めて、有機物が堆積しやすく、小型シギ類が好む多様な餌生物が生息できる環境づくりを実験的エリアで実施する。	
	戦略	シギ・チドリ類の個体数や採食行動、底生生物の定量調査や分布などの生きもの目線からのモニタリングによって、課題対応策の実施前と実施後での変化を評価検討する。その評価に基づいて、効果のある対応策を採用し、今後起こりうる変化も予測しながら、野鳥園の豊かな干潟づくりのため、市民参加型での順応的管理手法へとつなげる。	
評価		中間評価(評価日:平成○年○月○日)	年度評価(評価日:平成○年○月○日)
	年度目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 ー (1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園～干潟・湿地の保全～

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状 (前年度までの実績)	平成 27 年度目標 (当初)	中間実績	平成 27 年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26回	10回	23回					
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施	実施					
	環境省 (モニタリングサイト 1000) への情報提供	実施	実施	実施					
	干潟再生 PT で提示する資料整理 (鳥類とくに、シギ・チドリ類の利用状況のモニタリング結果に基づく干潟環境の変化に関する報告書)	毎年データ更新	—	作成					
底生生物調査	底生生物調査	2回	2回	2回					
	干潟再生 PT での資料整理 (底生生物の分布や特定種の定量調査結果からみる干潟環境の変化に関する報告書)	毎年データ更新	—	作成					
干潟現況調査	干潟再生プロジェクトチーム (PT) 開催	2回	—	2回					
	干潟管理に関する平成 27 および 28 年度の計画の策定	年度当初に干潟管理計画の策定	—	作成					
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3回	1回	2回					
	ボランティア参加人数	400人	127人	300人					
ヨシ刈等除草	実施回数	5回	1回	3回					
	環境学習との連動	5回	0回	1回					

4 重点的に取り組む課題 - (2) 環境学習の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

計 画	目指すべき将来像 (平成31年3月末時点)	市民に環境学習(高い質、豊富な開催量)の場を提供する。 毎週末(土 or 日曜)に野鳥ガイドまたは環境学習イベントを行う。
	現状(課題設定の根拠となる現状)	レンジャーが常駐していた以前の指定管理時のように、平日での環境学習の開催が難しくなり、年間の開催頻度が減っている。
	要因分析(目指すべき将来像と現状に差が生じる要因)	予算の減少のため、環境学習に関して、対応可能な日数と人材登用数が限られ、実施回数が限られる。 環境学習を開催できる知識のある人材が固定化している。
	課題(上記要因を解消するために必要なこと)	必要経費の捻出。 環境学習を開催できる人材の育成。 環境学習の内容を多様にして、回数を増やす。
	戦略	企業からの物的・金銭的支援を受け、企業や市民双方にとって有益で魅力あるイベントを開催する。 野鳥ガイドなど環境学習の入り口を提供できる人材を育成する。 渡り鳥のことを知ってもらう初歩的なイベントを増やし、多くの人に環境学習に親しみを持ってもらう。

		中間評価(評価日:平成○年○月○日)	年度評価(評価日:平成○年○月○日)
評 価	年度目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 - (2) 環境学習の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
【定例】 野鳥ガイド	実施回数	40回	17回	36回					
	ガイド制服作成	実施。各ガイドに支給。	—	実施					
【定例】 野鳥の会 定例探鳥会	実施回数	12回	5回	12回					
野鳥ガイド	登録人数	40人	13人	20人					
	一人で解説できる野鳥ガイドの数	12人	4人	6人					
環境学習会	単発観察会実施回数	6回	1回	4回					
	今年度初参加者数	30人	—	15人					
	年度新規単発イベント	毎年2回	—	4回					
有料催事	カメラメーカーへの訪問	有料催事を年2回開催	—	1社					
	アウトドアメーカーへの訪問		—	1社					
教員対象の環境学習プログラム	環境学習プログラムのカリキュラムを整備	教員対象プログラムを年2回開催		作成					
	シラバスを大阪市内担当部署に提示			実行					

4 重点的に取り組む課題 — (3) 広報・啓発の取り組み～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計 画	目指すべき将来像 (平成31年3月末時点)	野鳥園自体の存在や環境学習を開催していることを市民が知る。 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民が知ることで、自然環境への理解を深める。
	現状(課題設定の根拠となる現状)	野鳥園の認知度が低い。 野鳥園に渡来する代表的な渡り鳥であるシギ・チドリの認知度が低い。
	要因分析(目指すべき将来像と現状に差が生じる要因)	市民への広報不足。
	課題(上記要因を解消するために必要なこと)	渡り鳥の魅力とそれを支える野鳥園の存在を発信する。
	戦略	多様な媒体を使い、市民に情報を発信する。 また、どのような広報手法が効果的なのか調査する。 アンケートを実施し、野鳥園に対する利用者の評価を分析する。

評 価		中間評価(評価日:平成○年○月○日)	年度評価(評価日:平成○年○月○日)
	年度目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 - (3) 広報・啓発の取り組み～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	—	実施					
	各イベント案内	実施	—	実施					
	更新回数	48	—	24					
区政だより、地元情報紙等の広報媒体にイベント情報掲載	地元ミニコミ誌	2	—	1					
	地下鉄掲示板	2	—	1					
	大阪市HP	2	—	1					
	区役所にチラシ配備	実施	—	実施					
	※9月に開催する観察会について多方面での広報活動を行った上で、来場者にアンケートを実施し、効果的な広報媒体について調査する。								
展望塔内の展示スペースの活用	更新回数	4	—	2					
	野鳥写真の掲示	2	—	1					
	掲示板にイベントコーナー、お知らせコーナーの開設	実施	—	実施					
アンケートなどによる利用者ニーズの把握	実施数	3	—	3					
	有効回答アンケート数の内、40%から満足度4評価を得る(5段階評価)								

4 重点的に取り組む課題 – (4) 各事業のトータルコーディネイト～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計 画	目指すべき将来像 (平成31年3月末時点)	専門的知識を有する人材が、各事業を包括して設計、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、干潟・湿地環境の保全ができるようにする。 また、どれかの事業に参加することにより、シギ・チドリ類、干潟・湿地、生物多様性などについて実際に見て感じて理解できるようにトータルコーディネイトする。
	現状（課題設定の根拠となる現状）	干潟・湿地環境の保全に関して市民参加できるプログラムがない。
	要因分析（目指すべき将来像と現状に差が生じる要因）	干潟・湿地環境の再生プロジェクトで干潟の管理内容を決めたうえで、市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムを実行に移す。
	課題（上記要因を解消するために必要なこと）	干潟再生プロジェクトの内容を検討する中で、市民参加で出来る作業内容を決める。
	戦略	環境保全のための体験プログラムと環境学習プログラムの充実。 トータルコーディネイトに携わる人材の育成。 トータルコーディネイトに携わる人材の他湿地との交流による活性化。

評 価		中間評価（評価日：平成○年○月○日）	年度評価（評価日：平成○年○月○日）
	年度目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	自己評価		
	課題と改善策		
	委員評価		

重点的に取り組む課題 - (4) 各事業のトータルコーディネイト～鳥と人を呼ぶ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成27年度目標(当初)	中間実績	平成27年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
人材育成	トータルコーディネイトにかかわる職員の人材育成 (OJT)	5人	2人	4人					
他湿地の運営・管理者との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換	2回	—	1回					